

第11回 JCHO高岡ふしき病院地域協議会

日時 令和2年 7月16日(木) 16時00分
場所 JCHO 高岡ふしき病院2階会議室
各委員 医師会：一般社団法人 高岡市医師会監事
 たみの医院 院長 民野 均
行政：高岡市福祉保健部健康増進課長
 ・保健センター所長 山本 美由紀
地域：公益社団法人富山県アイバンク理事長
 JCHO高岡ふしき病院支援の会 会長 大黒 幸雄
病院：高岡ふしき病院 院長 高嶋 修太郎
 同 副院長 宮崎 幹也
 同 副院長 和田 攻
 同 看護部長 田井 雅代
 同 事務長 木下 敦士

内 容

委員紹介

(昨年度から変更なし)

高嶋院長から、第11回地域協議会開催の挨拶があり、協議会の開催趣旨(独立行政法人地域医療機能推進機構協議会設置要綱第5条)により、高嶋院長が議長となり議事に入った。

議 事

- 1、当院の取り組みについて
 - (1) 地域医療構想への対応について
 - (2) 新型コロナウイルス感染症対策について

院長より説明

地域医療構想への対応について

- ・厚生労働省が地域医療構想に関して公表した「再検証要請対象医療機関」に位置づけられている。
- ・高岡医療圏の地域医療構想調整会議は感染症の影響で開催が延期になっている。

- ・今後については、富山県やJCHO本部と繰り返し相談を行っている。
- ・病床数については、地域に必要な急性期病床数や高岡医療圏で不足している回復期病床数を踏まえ検討している。

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・公的病院として帰国者・接触者外来を設置した。
- ・新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる病床を確保した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策委員会を設け、課題について適宜検討している。
- ・施設入口で検温を行い、まん延防止に努めている。
- ・新型コロナウイルス感染症により患者数が減り、収支の確保に苦慮している。

最近の動き

- ・昨年9月より電子カルテシステムの運用を開始した。
- ・令和2年度より医学生、薬学生に対する奨学金制度が始まった。
- ・「高岡ふしき（伏木・古府・太田）地域包括ケア講座」の取り組みを開始した。
- ・病病連携や病診連携を積極的に行っている。
- ・JCHO版病院総合医育成プログラムに医師1名が登録し、研修を行っている。
- ・富山大学附属病院、厚生連高岡病院、JCHO病院の初期研修医プログラムの地域医療研修として、研修医を受け入れている。
- ・地域住民が安心して当院を受診していただけるよう広報を企画している。

2、各委員からの意見

高嶋院長

当院へのご要望、ご意見は如何でしょうか。

民野委員（高岡市医師会監事）

地域医療構想について「再検証要請対象医療機関」になったのは、救急の診療状況が問題になったとのことですが、診療科を増やすことを検討しているのですか。

高嶋院長

当院は回復期を中心に地域に貢献しようとしています。地域の病院で完結するために必要な急性期病床を確保しますが、地域の中での包括的な医療を行う回復期を中心にします。リハビリについては、充実させる必要があると考えています。

民野委員（高岡市医師会監事）

感染対策について、受診した時に発熱がなくても前日に熱があった人の受診があった場合に困っている。どのように対応されていますか。

高嶋院長

37.5以上の発熱だけでなく、症状がある方については注意しています。受付で問診をとるようにしています。PCR検査と抗原検査ができる準備をしているところです。

民野委員（高岡市医師会監事）

冬にインフルエンザが流行した場合にどのように対応されますか。

高嶋院長

この冬もインフルエンザと新型コロナと両方について診療しました。患者同士が接触しないようにしていました。

民野委員（高岡市医師会監事）

PCR検査の結果が出るまでに時間がかかるがどのようにしていますか。

高嶋院長

症状があれば入院、なければ自宅療養となりますが、場合によっては、待っている間入院していただくこともあります。

民野委員（高岡市医師会監事）

一般の方で症状がなく、PCR検査を受けたい人への対応は検討されていますか。

高嶋院長

県内でも対応しておらず、今のところ検討していません。

山本委員（高岡市福祉保健部健康増進課長）
現在は医師の判断で行うとなっています。

民野委員（高岡市医師会監事）
疾患がある場合は行うが、それ以外は保健所でないとできません。

高嶋院長
当院では、数に限りがあるので難しいと思います。

山本委員（高岡市福祉保健部健康増進課長）
都会では、プロのスポーツ選手などが検査を受けていますが、県内では行っていません。

山本委員（高岡市福祉保健部健康増進課長）
地域医療構想について、市議会でJCHO高岡ふしき病院への考えを示し、市長も認知症対策や病児保育など地域になくてはならない病院であると答弁されました。回復期病床の位置づけなど病院の特色を出されています。土曜日診療を行うなど非常に助かっており、地域のニーズに対応しています。

高嶋院長
地域に広報する際の内容などはいかがでしょう。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）
広報する際の文章が固いと住民を怖がらせてしまうことがあります。住民は非常に心配しています。大丈夫だと思っても心細くなります。なるべく簡単でわかりやすい内容で書いてほしいと思います。

民野委員（高岡市医師会監事）
マスクをされない方がいるがどのようにされていますか。

木下事務長
患者が使用したくとも供給が不足していた時期は職員が手作りのマスクを配ったりしました。また、マスク着用について毎日繰り返しアナウンスすることより定着していきました。

高嶋院長

地域の研修なども制限をかけて開催されるようになりました。標準予防策をとっていれば感染しないということをお話して、それが安心につながることを伝え、患者さんが安心して受診できるようにしていきたい。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

マスクの効果など具体的なことがわかると住民にはよい。

和田副院長

テレビでマスクなしでくしゃみした場合の映像を放送していました。

民野委員（高岡市医師会監事）

繰り返し伝えると理解されます。

和田副院長

高岡の輪番で第2・第4火曜日が救急の当番となっています。他の病院において、救急で行っても半数は在宅に帰っているようです。医師会にも連絡しているが、急患センターに行かれた方で、一晩点滴すれば良くなる方についてはご連絡くださいと話しています。

民野委員（高岡市医師会監事）

遅くに急患センターに来られると対応できなくなり、病院に依頼することがあります。

和田副院長

そのような機会があれば協力していきたい。

住民の方は当院が急患の受入を行っていると思っていらっしゃるのでしようか。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

自治会長も含め、そう思っています。

ただ、点滴をしてもらえるといった内容まではわかっていないと思います。このような症状の時には高岡ふしき病院へといったことがわかるとよいと思います。

民野委員（高岡市医師会監事）

開業医としてすぐに受け入れてもらえたのでよかった。

宮崎副院長

一般的な救急医療ではなく、腰椎圧迫骨折、慢性心不全、誤嚥性肺炎といった慢性期の救急が相当数あり、今後も増えると思われま。施設においても、このような患者が出た場合に二次救急に頼みにくいと思っているようです。当院の構想は、そのような患者を積極的に受け入れるための急性期病床だと位置づけています。また、地域包括ケア病棟であれば、レスパイト入院も受け入れるなど、そのようなことを近隣の先生方にも広めていくことが必要だと思っています。

在宅の訪問診療や訪問看護は最近減ってきています。空き家が増えてきて、高齢者の一人暮らしが多く、なかなか在宅までもっていけなくなっています。伏木地区だけにこだわらず、範囲を広げていければと考えています。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

伏木に足を運ぶ人は、これまでふしき病院が果たしてきた歴史にのっかっています。高岡ふしき病院に行けば何とかしてくれるという認識があります。地域的な古いつながりがあるが、それよりも病院はもっと重要であるということをもう少し訴えなければいけないと思っています。住民として働きかけをしているところです。

木下事務長

本日はいろいろなご意見をいただきありがとうございました。地域医療に貢献できるよう病院一体となって取り組んでいきたいと思ひます。

高嶋院長

本日はありがとうございました。

年に2回開催しますので、次回は2月頃予定しています。

今後ともよろしくお願ひいたします。

これをもちまして地域協議会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。